

公共交通の専門家が集結

深谷バスサミットで未来の路線バスを語る 埼玉工業大学

埼玉工業大学（埼玉県深谷市）は2月19日、深谷市民文化会館（同市）で「深谷バスサミット～路線バス×自動運転バスが創る地域交通の未来を学ぶ～」を主催した。令和7年5月に同大の特命教授に任命されたタレントの太川陽介氏が「生徒役」として登壇。同大の教授や専門家から路線バスの最新事情や将来像などを学び、会場を盛り上げた。

深谷バスサミットには大勢の人が訪れた



同大では「自動運転技術開発センター」を有し、自動運転技術やAI技術を活用した先駆的な研究や開発に取り組んでいる。令和5年度の入学式では、同大と同大の最寄り駅のJR「岡部」駅を結ぶ大型自動運転スクールバスで新生と保護者を送迎する特別運行を実施し、先進的な事例として注目を集めた。令和7年には、深谷市コミュニティバス「くるリン」の渋沢栄一ゆかりの地を周遊する「周遊便ルート」で、県内で初めてのコミュニティバスにおける自動運転運行を実現した。

同大が位置する深谷市では、地域公共交通における自動運転技術の導入や推進に向けた「深谷自動運転実装コンソーシアム」の活動など、地域公共交通の充実を政策

課題の一つに掲げ、中でも自動運転技術の社会実装に向けて積極的に取り組んでいる。当日は小島進市長がビデオメッセージを寄せるなど、深谷バスサミットへの注目度の高さがうかがえた。

同サミットでは、内山俊一学長をはじめ、同センターのセンター長を務める渡部大志教授や地元企業を中心とする産・官・学の関係者である国土交通省関東運輸局の佐藤直人自動車交通部長、深谷観光バス株式会社（本社・同市）の高田勇三代表取締役社長、ティアフォー株式会社（本社東京・品川区）の柏田庸介社会実装事業推進部部長、アイサンテクノロジー株式会社（本社・名古屋市）佐藤直人取締役、A-Drive株式会社（本社・横浜市）の岡部定勝代表取締役社長、株式会社ケー・シー・エス（本社東京・文京区）佐野正執行役員・未来創造本部長が、現在の公共交通に関する課題について続々と講演。自動運転バスを代表とした“これからの移動の在り方”について見識を深めた。



路線バスの維持に対して感謝を述べた太川陽介特命教授

専門家による講義を受けた太川氏は「バス旅で始発バスに新聞を積み、道中の集落に配達するという光景を見たことがあります。バスは、人間の移動手段としてだけではなく、物流にも活用できるのではないのでしょうか」と、バラエティ番組の企画において全国各地を路線バスで旅した自身の経験を交えながら、路線バスが持つ可能性に言及した。

令和7年度からは工学部に「自動運転専攻」を設置し、令和8年4月に創立50周年を迎えるなど、充実した学びにさらに弾みをつける埼玉工業大。産・学・官連携して取り組む専門的な学びに大きな期待が寄せられている。